木づかいnews

発行:ジャパンフォーレスト株式会社　企画協力:NPO法人木づかい倶楽部

541-0052 大阪市中央区安土町1-7-20 新トヤマビル6F　tel.06-6264-0831 fax.06-6264-0227

第一弾は樹齢八〇〇年頼朝杉で弥勒菩薩像

“銘木・地産木シリーズ”本格スタート

木づかい事業を始めて２年目の秋、2012年9月５日の早朝でした。「樹齢800年の頼朝杉が倒木!!（実際は9月2日午前7時）」のニュース。早速倒木地の静岡県島田市の智満寺へ有効活用のお願いに行きました。

以来3年の年月を経て、その第一弾が智満寺により弥勒菩薩像として蘇りました。頼朝杉を筆頭に“銘木・地産木の有効活用”シリーズが今秋から本格スタートします。

なぜ頼朝杉なのか？

木づかい事業５年目に入り、事業の裾野を広げるための素材を探していたところ、頼朝が挙兵時に『大願成就』を祈念して手植えしたと伝えられる頼朝杉は、格好の材料でした。樹高36m、直径４mの巨木。樹齢800年の木肌は、屋久杉並みのきめ細やかさ。倒木地・智満寺のご意向で、活用の第一弾は、現代仏教美術界の第一人者・江里康慶仏師により、見事な弥勒菩薩像となりました。

二胡奏者との出会いで頼朝イメージソングも

「以前から国産材で作ってみたかった」というシンガーソングライターの里地帰（さとちき）さんは、若き二胡奏者。完成した二胡で頼朝をイメージしたオリジナル曲『時、紡ぐ音』は、すばらしいメロディー。音色も優美です。楽器としての出来ばえも出色で、「和胡」のネーミングで商品化することも検討中です。

弥勒菩薩開眼法要（2015.7.17）の智満寺本堂で演奏する里地帰さん

日本経済新聞（夕刊）　2015年（平成27年）4月11日（土曜日）

うたた寝

仏像として蘇る「頼朝杉」

関連商品もぞくぞくと

頼朝杉の残材は約27㎥あります。智満寺で販売されている人気のストラップをはじめ、ブレスレットや蔵書印セットなどの小物から仏壇や家具まで、今秋から関連商品をぞくぞく出してまいります。

頼朝杉はこうして蘇りました・・・

倒木前の頼朝杉

天然記念物だった

危険を伴った搬出作業

高名な江里仏師による墨（ノミ）入れ式

完成した弥勒菩薩像

食卓エンタ（広告箸）300万膳突破!!
新たなステージへ

“森林の元気”を目標に、間伐材や国産端材を有効に活用した割箸から始めた木づかい事業。食事をするためのお箸だから“食卓を楽しく”との思いも込めた「食卓エンタ」（食卓エンターメントの略）が300万膳を突破しました。
今後は、さらにダイレクトな社会貢献を実践していきます。

若い人たちに積極的な献血協力をしてもらうために

ヘルプカードは「障害者が携帯し、いざというときに必要な支援や配慮を周囲の人にお願いする」ためのカード。

今、広報出稿を日本赤十字社や製薬会社へお願いする一方、割箸を置く各大学には献血協力者に対し健康管理のために学食プレゼントをしてもらう等の提案をしています。またヘルプカードについては、全国展開の外食チェーン店に置いていただく予定です。

食卓エンタ（広告付割箸）の実績

森林・里山の再生をめざすビジネス活動…使ってこそエコ『の実践

社会貢献にもっと役立ちたい！

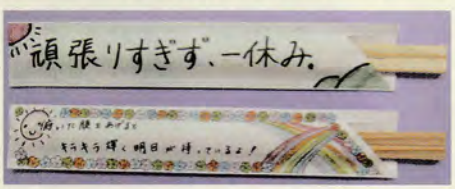
2016年夏の参院選は、選挙権が18歳以上に引き下げられ、初の実施となる大切な選挙です。全国各地の選管に営業すると共に、割箸を通じ各大学の生協と連携の樹恩ネットワークとの協同で投票啓発を積極的に働きかけます。

世界遺産『和食』と共に国産材箸と文化を海外へ

ボストンで（2015.8）

OECDレセプションで（2014.5）

できることで長～く応援したい！



大きなことはできませんが、メッセージ付きの割箸セットを東日本大震災の復興各地のイベントで使っていただけたら…と継続してプレゼントしています。
この活動は、京都女子大学の高桑進名誉教授と同大学や同志社女子大学の学生さんたちの協力があって実現しています。
メッセージは両大学の高桑ゼミ生のみなさんから公募。採用させていただいた箸袋は、上が京都女子大学、下が同志社女子大学の学生さんの作品です。

源氏物語お姫様シリーズ1

日本の伝統文化シリーズ
※いずれも見本です。

源氏物語お姫様シリーズ2